

## 【樹木・草花の部屋】

### ミツマタ（ジンチョウゲ科/ミツマタ属 Edgeworthia chrysantha）

**和名**；ミツマタ（三桮） **別名**； **英名**； Oriental paperbush

フトモモ目 落葉低木

**原産地**；中国中南部、ヒマラヤ地方原産 **花言葉**；強靱、意外な思い

**花の色**；白



← 写真－1 ミツマタ

撮影日：2013年2月14日

撮影場所：三宅町

奈良県立高等技術専門校にて

撮影者：Tさん

今年の2月に、専門校を訪れた時にカメラに収めました。4月入校生はこのミツマタの枝しか知りません。なぜか、枯れかけの衰えな姿しか思い出がありません。

花後に細長い全縁の葉が出ると

言いますが思い出せません。こんなに元気な姿を見て、思わずシャッターを切りました。

写真－2 ミツマタの花 ⇒

撮影日：2013年2月14日

撮影場所：三宅町

奈良県立高等技術専門校にて

撮影者：Tさん

春の訪れを、待ちかねたように咲く花の一つがミツマタです。春を告げるように一足先に、淡い黄色の花を一斉に開くので、サキサクと万葉歌人はよみました（またはサキクサ：三枝「さいぐさ、さえぐさ」という姓の語源とされています）。

ミツマタは、その枝が必ず三又、すなわち三つに分岐する特徴があるため、この名があり、三枝、三又とも書きます。「三桮」とも書きます。「桮」は”あ”とも読み、「木の股」の意味があります。中国語では「結香」（ジェシアン）と称しています。



## 【樹木・草花の部屋】

<ちょっと一言 >

### 園芸種：

オレンジ色から朱色の花を付けるものもあり、赤花三桠（あかばなみつまた）といいます。戦後、愛媛県の栽培地で発見され、今では黄色花とともによく栽培されています。

### 利用：

樹皮には強い繊維があり、和紙の原料になります。

しわになりにくく高級で、また虫害にもなりにくいので、1万円札などの紙幣や証紙など重要な書類に使われる。1876年（明治9年）に、政府印刷局で三叉を原料として紙幣を作ってから、三叉の利用度は非常に高くなりました。紙幣以外にも、証書・地図用紙・コピー紙など各種の紙とその原料として幅広く使われています。（ちなみにコウゾは障子紙や書画用紙、ガンピは日本画用紙や襖紙などに利用されています。）

### 関連項目：

ミツマタ（小惑星）:小惑星番号 16731 番の小惑星。発見した佐治天文台のある佐治村（現在の鳥取市）名物の手すき和紙・因州和紙がミツマタを原料とすることにちなみ命名されました。

「春されば まず三枝（さきくさ）の 幸（さき）くあらば  
後（のち）にも逢はむ な恋（こ）ひそ 吾妹（わぎも）」

柿本人麻呂

ミツマタは冬の季語ですが、ミツマタの花は春の季語。春を告げる花として、古くから親しまれてきたのです。